

鳥取神青通信

第14号

発行元
鳥取県神道青年会
編集
中部青年神職会

お木曳き行事

鳥取県神道青年会
会長 須山倫史



「エンヤーエンヤー」の掛声とあの感動が今だ脳裏に焼付いており、興奮覚め遣らぬ今、畏敬なる思いを以つてお木曳き行事参加の御報告と御礼を申し上げます。

平素は、青年会の諸活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

去る五月二十六日(二十七日)、鳥取県神道青年会主催にて、第六十二回式年遷宮第二次お木曳き行事の参加者を募集致しました所、県内より大勢の皆様に参加頂き誠に有難う御座いました。

ご周知の通り神宮式年遷宮もいよいよ近づいて参り、

我々青年会と致しましても啓発活動を行って居る所で御座いますが、志気の高揚する最中、二十年に一度の遷宮に何としても参加したいと言う会員の篤い思いと願いの下、本事業を企画致しました。

お木曳き行事への参加者は三十八名、バス一台に乗合せて伊勢の地へ向い、二見興玉神社で祓いを受け、先ずは鳥羽で一泊。翌朝、晴天に恵まれ暑い程の日差

しの中、出番は一番隊、四玉に整列していざ出発。幟を掲げ「エンヤーエンヤー」の掛け声で奉曳きし、外宮到着の頃には感動と興奮は最高潮に達し、千三百年の歴史に思いを馳せながら至上なる感銘を受けました。

今後の継承を祈念しつつ、平成二十五年から神宮の新しい歴史を刻み始める御用材に万歳と感慨の思い一入で御座いました。

今回の貴重な体験を経て、本宗と仰ぐ神宮の存在意義を再認識し、更なる啓発活動に努め、奉賛の誠を捧げる次第で御座います。

終わりに、先輩諸賢、参加者、関係者皆様方のお力添えによって本事業が盛会に終える事ができ、深く御礼を申し上げます。



内宮正式参拝後、宇治橋前に於いて

お木曳き行事 参加者の声

思い出に残るお木曳き

中嶋 俊史

まず初日には、古儀に倣って「見興玉神社で「浜参宮」をして心身を清め、翌日に備えました。既に全国各地から多くの奉仕団体が到着しており、その中にいるだけで気持ちの高ぶりを覚えました。翌朝の陸曳きは一番車。地元の先導者の声に導かれて、一本のご用材を約千六百名という白い集団が心一つにして引つ張りました。約八百メートルの行程を「エンヤ、エンヤ」と絶え間なく叫びながら曳くのは意外に辛いものですが、外宮に到着し皆で「万岁！」と叫んだときの爽快感は忘れられません。「一日神領民」の制度ができてから三回目の遷宮ということになります。地元の皆さんの歓待ぶりは素晴らしく、気持ちよく二日間を過ごすことができました。お白石持ち行事には、また皆さんで。」という須山会長の言葉がありました。そのときには是非また参加したいと思っています。

お木曳の感動を

息子と共有して

永江 吉邦

伊勢の地において、小学三年生の息子とともに『第二次お木曳行事』に参加した。五月とは思えない猛暑の中、「エンヤ」の掛け声と共に皆が心をつなぐ。隣で綱を持つ息子というと、神妙な顔をしたり、きよるきよるしたり、続け様に質問をしてきたり……。自分なりにこの何ともいえないお木曳きのパワーを全身に感じ取っている様子であった。お木曳きの約八百メートルの道中には、神明奉仕の真心の一致、団結の力、今に守り伝えていく奉仕の心、厚い人情、バリアフリーの気配り等々、日本人として、また地域として、そして家族

としてあるべき姿全てが凝縮されていた。

その後の神宮正式参拝では、神宮の清らかで静肅なる自然、さらには時空を超えた空間への誘いの中に身をおき、悠久の歴史や受け継がれてきた文化に触れた。今の息子にとつて、遷宮の古くて新しいという伝承の繋がりは理解しがたいであろう。だが、ここに立つて五感で素直に感じたこと全てが、神宮崇敬や遷宮奉賛への真心を大きく育んでいると確信している。

大きな感動と心地よさを



いざ、浜参宮へ

全身に満たして帰ってきた息子は「浜参宮之証」と「御木曳」の木札を「かっこいい!」と何よりも宝物にしている。

そう、神を近くに感じられる生活様式や生き方こそ、本当の「かっこよさ」なのである。「次は、『お白石持行事』に参加する!」と今から意気込んでいます。こうした奉賛の誠を捧げる小さな心を、広くそして営々と受け継いでいかねばならない。

御木曳きを奉仕して

今岡 靖史

五月晴れの青空の下、かねてより待ち望んでいた神宮御木曳き行事に奉仕してまいりました。鳥取県神道青年会の事業として企画され、総勢三十八名の参加者の内に加えて頂きました。二十一日の浜参宮、二十七日の御木曳きは両日とも好天に恵まれ、私は妻と小学六年生、四年生の娘と共に伊勢の一日神領民となり、初めて御木を曳かせていただくことができました。何と言いま

采を持った木遣り子



しても、あの盛大さを実際に体で感じ得たことは、次世代を担う者へのこれ以上とない教化になったであろうと思います。

一泊二日という少々忙しい行程ではありましたが、早朝の発発より帰宅まで興奮冷めやらぬ充実感に満ち溢れ、楽しい二日間を過ごすことができました。御木を曳き終えた後のあの時の感動が忘れられず「エンヤ、エンヤ」の掛け声がいまだ頭の中から消えることがありません。二十年に一度だからの感動であると思うのですが、私自身、妻や娘も「もう一度行きたい。」と願う気持ちでいっぱいです。感動をありがとうございます。

お木曳きに奉仕して

井上雅也

この度、第六十二回神宮式年遷宮御用材曳「お木曳」に参加させていただきました。二十一年に一度の行事という事もあり、光栄であると共に、責任重大であるとの思いを胸に伊勢へと向かいました。

当日、大勢の人たちと共に一心不乱に御用材を曳かせていただきました。今回の体験は一生忘れることはないでしょう。今回のお木曳きで、式年遷宮の重要性を再確認することができました。

お木曳き行事

福田 靖

この度、第六十二回式年遷宮に際するお木曳き行事に参加させていただきました。お木曳き車を引いて歩くと、車輪から唸り声のような音が響きます。実際に綱を持つて歩くと、後方の木から音が鳴っているようで、荘厳な雰囲気を受け、お木曳きに参加しているのだ、と

改めて実感しました。

新しい御社へお移りになり、お木曳き行事のかけ声でもあった「エンヤ(栄弥)」を導かれる大御神様のためにご奉仕できたこと、嬉しく思い、同時に素晴らしい経験になったと感じます。

外宮めざして出発



伊勢神宮参拝と

お木曳き御奉仕の旅

女子神職会副会長

池本令子

鳥取県青年神職会が企画されたお木曳き行事にご奉仕し、感激と感謝でいっぱいです。前日に揃いの法被で二見浦に「浜参宮」し、心

身を清めて二十七日はお木曳きご奉仕。巨大な木引車の間近で、大綱を手に掛け

声も爽やかに外宮までの八百メートルの陸曳き。言葉ではとても表現できない、総てが一つ心で興奮、歓喜、身も心も感動。外宮・内宮と正式参拝し心も落着いた。

おかげ横丁を楽しみ、帰路についた。女子神職会からも四名参加した。青年神職の方と共に旅し、会話し、本当に有意義な二日間だった。誠にありがとうございました。

お木曳きに参加して

諏訪神社 総代

住田明理

お木曳き当日は晴天に恵まれ、私たちは神明奉仕の衣装で出発地点宮町へ向かいました。すでに大勢の人が集まっており圧倒される雰囲気でした。一番車丸四つ組の後ろには大きなお木曳き車があり、一番良い位置に陣取りました。二本の白い綱を千五百余人の手で「エンヤ、エンヤ」皆の掛け声

エンヤ、エンヤと絶え間なく



に日本人の心が一つになったような何かじんときと来るものを感じました。

お木曳きに参加して古代にタイムスリップした様な気持ちになりました。現代社会では地球温暖化、環境破壊など騒がれる中、少しは昔を顧みることが必要ではないかと思えました。外宮まで八百メートルの距離ではありましたが全国から人々が伊勢に集まり、心一つにして神木を曳いた感動は忘れられません。また、伊勢市民のボランティアの人達が一生懸命に私たちに指導し、歓迎してくださったことに

拍手を送りたいと思います。

五年後の御白石持ち行事にも是非参加したいと思えます。

お木曳に参加して

佐本久夫・富美子

この度は、お木曳きに参加させて頂き、厚く御礼申し上げます。青年神職さんと一緒に奉仕出来て本当に良かったです。私たちが夫婦は今年で六十五歳になりますが、お木曳きに参加したお陰で新しい命を頂きました。有難うございました。



のぼりも高らかに

お木曳ぎに参加して

荒井 勉

この度、伊勢神宮に初めて参拝した私が、千三百年の歴史ある第六十二回神宮式年遷宮御用材お木曳ぎ行事に参列させていただきました。本当に感銘いたしました。しかも二十年に一度の大行事です。

前日は二見興玉神社の浜参宮で身を清め、当日、揃いの法被に身を包み、御用材を積んだお木曳車を木造りの音頭に合わせ、千人余りの人が心をひとつにして平素のご神徳に感謝しながら「エンヤ、エンヤ」。掛け声を高らかに御奉曳する勇壮な光景はまさに神力であり、誇りある伝統です。奉曳は外宮北門で終わり、いよいよ外宮、内宮の参拝です。鳥居をくぐると神域です。鎮守の森には八百杉、楠等の巨木が立ち並び、心を清々しく癒すばかりか神秘な力を与えてくれます。

天照大御神をお祀りする

内宮、豊受大御神をお祀する外宮では、一般参拝では入ることのできない御正殿近くで参拝させていただきました。日頃の御神徳に感謝すると共に平成二十五年の遷宮の御白石持ち行事にも、健康を保って、是非参加させていただきたいと願うものです。終わりにあたり、今回の参拝は私の一生の良い思い出に残る貴重な体験でした。鳥取県神道青年会の皆様本当に有難うございました。



無事、外宮に到着

中国地区氏子青年神道青年合同研修会
地区最西端・下関市・亀山八幡宮に集合

朝方早くに出発して、約六時間、三人で交替しながらの車内では、事務局長を経験した先輩に活動内容等を聞きながら運転、休憩を繰り返しました。集合時間前に現地入り。昼食は初めての鯨を口にしました。以前は、給食にも出ていて先輩方は好物だと聞く。自分の感想としては、昼食を済ませてから、いざ会場入り。数年ぶりに再会した先輩から「デカくなったなあ、太ったんやないか？」再会の喜びから一転した。

会場となった亀山八幡宮の会議室の広さに、神社が会場になるのか？と言う不安を払拭させた。ただ驚いた。いよいよ開会。講師先生方は第一講が『伊勢の神宮の神饌について』をご講話いただいた、神宮宮掌・石垣仁久先生。外宮では御鎮座

以来、神々がお召し上がりになる食事を調理しお供えする「日別朝夕大御饌祭」が、また神嘗祭の由貴夕・朝大御饌、遷宮の翌日の大御饌など古式にならない御饌を奉る祭が行われるなど、食の文化もまた今に伝えられている事など学ぶ事が多くあった。



鳥神青参加者4名

第二講は「下関の水産―ふく・うに・くじら―」の演題にてご講話いただいた松村久先生。(下関唐戸魚市場社長・ふく連盟会長)



巖流島の武蔵と小次郎

下関は豊臣秀吉が禁じ、後に伊藤博文が解禁した全国一の水揚げであるふくや、大東亜戦争後の食糧難の時代に大きな役割を果たした南水洋捕鯨の一大拠点として栄え、また今日一般的となっているうにのアルコール漬け保存法発祥の地でもある。これらのふく、うに、くじらは縄文・弥生時代から食されている下関を代表する水産物で、毎年それぞれ豊漁祈願や供養祭などが神社でおこなわれている。皆、真剣に講義を受けていた。その後懇親会を通して五県の同士達で交流を深めた。翌日は、巖流島散策、関門海峡遊覧をして解散。充実感のある研修であった。

(入江雅彦)

神青協中央研修会 宮崎地鶏に舌鼓

去る三月八、九日の両日、宮崎県・宮崎観光ホテルにて、平成十八年度・神道青年全国協議会中央研修会が開催された。昨年度は鳥取県が担当した神青協の大きな事業の一つである。

「肇國」(皇祖発祥の地で皇室の尊厳護持を誓ふ)のテーマで、安本美典先生、後藤俊彦先生、留守晴夫先生を講師に向かえ、さすが「日向の國」という研修内容であった。

研修二日目の講師、留守先生(早稲田大学教授)の講義は「栗林中将と日本人」という演題で、大変興味深かった。著書である「常に諸子の先頭にあり」(慧文社)を後日買い求め、興奮しながら読んだ。この本は皆様にもお勧めしたい。ただし旧仮名使いで、漢字も難しい。

鳥取県からの参加は須山氏と私の二人。私は昨年度(平

成十九年三月)までの二年間、神青協の事業委員会に席を置いていたので、研修会前日より宮崎入りをしていた。結果二泊三日を東国原英夫知事旋風の宮崎市ですごし、二晩とも宮崎地鶏に舌鼓を打つという幸せな研修でもあった。機会があればまた宮崎の地を訪れたい。

(櫃田康一)

各単位の活動

東部若葦会

若葦会では、昨年の秋季卓上研修会で古文書の解説について取り組みました。

賀露神社の岡村禰宜を講師に、先ずは、この研修を行なうことの主旨や取り組み方について説明を受け、実際に現存している「因幡国神社御改帳」の解説を試みました。しかし、見てい

調べ、少しずつ皆が読めるようになってきました。そして、それを元に、その御改帳を当日の参加者十四名で振り分け宿題として持ち帰りました。

今まで四回の研修を行ない、回を重ねていく度、皆が古文書のコツをつかみ、大体の字が読めるようになってきました。今後の日程

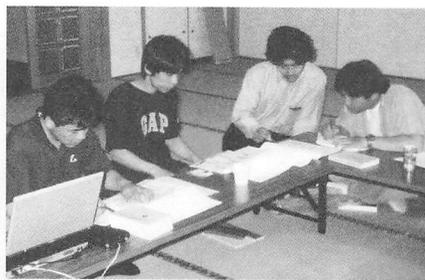
としては、六月末で修正しパソコン入力をし、最終的にはその改帳を平成のこの御世に翻刻して蘇らせようと思っ

ています。皆が岡村先生の思いに共感し、各員各々が関心を持ってきたことは事実です。やはり神職たる者、昔の自社のことや兼務社の歴史等を把握しておかねばなりません。そして、少しでも何百年前の筆跡を

解読して氏子や総代の方々に知って頂くことも大変良い事だと考えます。これからも、できる限りこの研修を続けていきたいと思

館の大嶋先生も毎回お越し頂き、楽しく行なっているこの事業は、現在進行形で進んでいます。

(田中正臣)



岡村先生(写真左)との研修会

中部青年神職会

中部青年神職会は、相変わらず少人数の活動ではありますが、まともりと盛り上がりを見せております。今年度は今までなかなか実現できなかった研修会を企画しました。会員それぞれ得手、不得手がある中、ま

ました。

六月二十三日、櫃下神社を会場に会員六名の参加で祭祀講習会を行いました。

鳥取縣神社廳祭祀講師で県青神第八代会長の倭文神社の米原尊仁宮司を講師にお迎えし、私達にとつて最良の設定でこの日を迎えることができました。

社務所での開講式の後、場所を拝殿に移し大祭式の次第に沿って実践的な基本動作を学びました。各奉務神社の社殿の形態、大小、また祭典の流れが一樣ではないことで教科書通りにはいかない箇所や普段からの疑問などについて分かりやすく説明戴きました。中には緊張のあまり左右、戸惑い滑稽な姿を見せる者、間違いを堂々とする者があり、とても人には見せられない場面もあったように思います。恥のさらし合いの様にも見えましたが、互いに一度裸にされて学んだことで間違っ

てしまっていた作法が、正しくしっかり身に付いたのではないのでしょうか。

半日間という短い時間の研修でしたが、この研修会を終えて、会員の技術と研鑽意欲の向上が図れたのではないかと思えます。米原講師への感謝を胸に、今から次回の開催が待ち遠しい限りです。

(池本 靖)



中部青年神職会祭式講習会

西部青年神職会

西部青年神職会は今年度の事業として三月に神道行法練成会(寒中禊)と六月に子弟交流会を行いました。神道行法練成会は日野町

中管の滝山神社で佐々木武彦宮司のご協力を頂き、同社にありますが、今年は暖冬でありましたが、当日は雪の降る天候となりました。道彦寒中禊となりました。道彦

として樂樂福神社木山典明宮司にご指導頂き、皆熱心に鳥船に励み、身を切るように冷たい滝壺に入って大祓詞を奏上し潔斎いたしました。これにより心身共に清められ、春祭りに向けて各自気合が入ったと思います。個々でこのように禊をすることは少ないと思うので良い機会となりました。

子弟交流会は、会員と次世代を担う子弟が触れ合う機会になればと思いい企画しました。南部町下中谷の上長田神社に正式参拝し、今岡莊吾宮司より神社の由来を説明して頂きました。その後、南部町立体育館に移動して大人も子供も共に遊べるスポーツで汗を流し、互いに親睦を深めることが

できました。この会は次の世代の横の連携を深める良い機会になると思っておりますので、今後も開催していきたいと思えます。

(石塚朝久)



滝山神社での寒中禊

新入会員紹介

氏名 前田伊都岐
住所 東伯郡湯梨浜町
住 所 壺見一一六
奉務神社 籠守神社
所 属 中部青年神職会



◎今後の抱負

我が家は、親子三代で神

鎮物

単価・五〇〇円

(なるべく十体単位でお願い致します。)

体裁・桐箱入り、鎮物印字、

白紙包み、麻結び、

アルミ形在中

(重量約三〇g)

※御用命は鳥取県神道青年会

(お近くの青年神職)へ

※頒布料の一部が県青年会の

活動資金となります。

職をしており、これは代々伝えていきたいと思えます。

幼い頃、伯耆神楽の美しい音色を聞き、初めて神職を志望してから約二十年が経ちました。今後は、私が感じた神楽の美しさを、地域の方々、そして後世にも伝えられるよう努力していきたいと思っております。

また、総代さんや氏子さん、地域の方々に信頼されるような神職になりたいと思っておりますので、先輩方ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いたします。

編集後記

すっかり梅雨らしくなつての嫌な暑さが続きます。神通信が発行される頃には梅雨も明けて暑い夏になつていでしょうか?この雨で各地の水がめも潤ったことでしょう。

今回の神通信は、いわゆる「お木曳き特集号」となりました。原稿依頼の際には紙面が埋まるか心配でしたが、集まった原稿はどれも力作ばかりで一安心しました。私は家事都合?によりお木曳きには参加できませんでしたが、参加された方のお土産話を聞かたに「行きたかったなあ」と悔やまれます。次は御白石持行事が企画されるはずなので是非是非参加したいと思えます。

鳥取県神道青年会もこの二年は中央研修会、お木曳き行事参加と大きな事業を行いました。役員改選期となりました。旧役員の皆さんお疲れ様でした。新役員の皆様がんばって行きましょう! (後藤)